

平成 30 年 5 月 16 日
愛 媛 大 学

快適な寝心地を実現させる枕 「SLEEPMEDICAL PILLOW」を開発 — 記者説明会の実施 —

このたび、愛媛大学医学部附属病院睡眠医療センターと株式会社アンミンピローが、「いろいろな寝姿勢に対応でき、個人の好みにあった快適な寝心地の枕」の開発を目指した共同研究の成果として、商品名「SLEEPMEDICAL PILLOW」として販売を開始することとなりました。

共同研究には、本センターの岡靖哲(おか やすのり)センター長が参画しており、就寝時に快眠が得られる姿勢としてもっとも良いとされている『頭部と体幹のラインが直線になる姿勢(自然立位と同じような姿勢)』となるよう改良を重ねてきました。枕のサイズ・形態・構造・高さ調節機能などの検討・検証を行い、3ステップの高さ調節が簡単にでき、4 分割構造で中身の偏りを予防し、頭・首・肩にフィットする等の特徴をもった商品の開発に成功しました。

この共同研究は、四国 TLO が橋渡しを行っており、愛媛大学産学連携事業として実現したものです。

つきましては、是非、取材くださいますようお願いいたします。

記

日 時 : 平成 30 年 5 月 22 日 (火) 15:00 ~
場 所 : 愛媛大学本部 第 2 会議室 (5F) 松山市道後樋又 10 番 13 号
出席者(予定) : 愛媛大学理事・副学長 仁科 弘重
株式会社アンミンピロー 代表取締役社長 高戸 菊夫
愛媛大学医学部附属病院睡眠医療センター長 岡 靖哲

※出席者は、予告なく変更する場合があります。

本件に関する問い合わせ先
愛媛大学医学部
総務課企画・広報チーム
電話 089-960-5943

※送付資料 3 枚(本紙を含む)

SLEEPMEDICAL PILLOW

1. これまでの課題

就寝時に快眠が得られる姿勢としては、頭部と体幹のラインが直線になる（自然立位と同じような姿勢になる）ことが最も良いとされている。店頭で自身に最適な枕を選んだ場合でも、実際は敷布団・ベッドの沈み具合によって、望ましい体勢にはならず、下記のような問題が起こっている。

1) 寝返りを行ったときに最適な頭の高さになっていない

仰向け時と横向き時では肩の高さ分だけ頭の位置が高くなる、また寝返り時は肩を中心に回転する分、頭の位置が横にも移動する。つまり寝る姿勢（仰向け、横向き）で頭の高さが異なる為、従来の枕では対応できない。

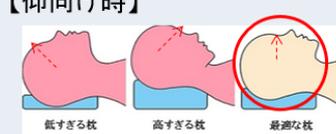
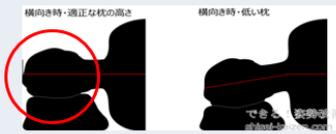
2) 通気性やクッション性など素材機能性を変更できない

枕の硬さや、クッション性、通気性などは個人の好みによる部分が大きく、現在発売されている枕だと枕自体を買い替えないと機能性の変更を行えない。

3) 高さを調整した時に枕内の部材が偏る

低くするため部材を抜くと密度が小さくなり部材が中で偏るため、頭が底に付いてしまう。逆に高くする為部材を多くすると密度が大きくなり、枕が固くなる。

これらのニーズを満足する為、中身の部材を取り出し高さを調整する機構の枕が販売されているが、さらに下記のような問題が存在している。

項目	市場ニーズ		
	仰向け睡眠時の高さ調整	横向き睡眠時でも快眠	枕の固さ
理由	<p>【仰向け時】</p>  <p>低すぎる枕 高すぎる枕 最適な枕</p> <p>【横向き時】</p>  <p>横向き時・適正な枕の高さ 横向き時・低い枕</p>	<p>適正な高さの枕を選ばないと、気道の確保や、首骨への負担が大きい。理想は、直立姿勢と同じ姿勢が睡眠時でも保てる高さが最適。</p>	<p>人により、好みの感触（素材感）が異なるため</p>
問題点	<p>・店頭で最適高さであっても、下布団の沈み具合によって、大きく高さが異なる（購入した後で後悔）。 ・仰向け時と横向き時の頭部の高さが異なるため、一つの枕でそれに適応できるものはない。</p>		<p>一素材一品であるため、費用がかかる。（自由に素材感を変更できない）</p>

